



金融センターと資本市場

9

9.1	銀行	89
9.2	スイスの証券取引所：SIXスイス証券取引所	91
9.3	企業向け融資と不動産融資	92
9.4	リスクキャピタル	93
9.5	資本コストと利子	95
9.6	インフレ	95

GDPの9.7%を占め、およそ22万4400人万人(スイスの就業人口の5.3%)の就業者を擁する金融部門は、スイス経済にとって極めて重要な存在です。スイスが主に得意とする金融商品は、プライベートバンキングとアセットマネジメント(資産運用)、そして保険です。スイスは安定した経済・金融状況を長期間維持しており、その安定性はインフレ率や金利の低さに反映されています。特にスイスフランはアセットマネジメントや株式・再建の発行引受の分野で、国際的通貨として多大な役割を果たしています。

9.1 銀行

9.1.1 業界構造と事業環境

スイスには約240の銀行があり、従業員数は14万8,000人(フルタイム換算)に上ります。スイスの2大グローバルバンクはUBSとクレディスイスの2行です。その一方で、州立銀行、信託銀行、ライフアイゼン銀行や地方銀行、ならびに外資系銀行も重要な役割を果たしています。他にも、小規模な金融機関やプライベートバンクも多数存在し、中には専門性の高いサービスを展開しているものもあります。24の州銀行グループは、一部または全部が国営で、いずれも政府からの保証を受け、国内市場の3分の1のシェアをとっています。2021年、スイスに拠点を置く全銀行の総資産のうち、州銀行のシェアは約20%に達しました。全資産の約7%のシェアを保有する外資系銀行93行も、上記の数字に加えて特記すべきことです。スイスは、個人の顧客および機関投資家の専門的資産管理における中心地となっています。約25%という2021年の市場のシェアに見られるように、スイスは国を越えた資産運用ビジネスにおいて、世界をリードする存在です。全体として、スイスの銀行が2021年末の時点で運用した資産は、合計8兆8303億スイスフランに達します。

金融センターとしてのスイスの成功は、多くの要因による複合的な効果をもたらしたものです。スイスは、政治的にも、経済的にも安定しており、さらに模範的な規制や監督体制も整っており、こうした点が顧客の信頼を築く基盤となっています。信用は金融ビジネスに欠かせません。

グローバル金融規制・透明性・コンプライアンス指標(GFRTCI)

尺度：0から100

(図32)

1	フィンランド	86.3
2	スウェーデン	85.9
3	デンマーク	83.4
4	スイス	83.1
6	英国	81.0
7	アイルランド	80.4
8	フランス	80.0
9	カナダ	79.6
10	オランダ	78.5
11	ドイツ	78.4
12	オーストリア	76.3
14	ルクセンブルク	76.2
15	日本	75.6
17	ベルギー	74.7
19	オーストラリア	73.1
21	イタリア	72.2
23	米国	70.3

出典：グローバル金融規制・透明性・コンプライアンス指標(GFRTCI)、2021年

重要な国際準備通貨として、そして分散投資の選択通貨としての地位を確立しているスイスフランも、世界的な金融センターとしてのスイスの成功に寄与しています。強力なグローバル・ネットワークと効率的な資金調達により、市場参加者、資産価値、リスクを有利にコントロールし、国際的に展開することが可能になります。スイスは、金融センターとして国際的に高く評価されており、ビジネスの拠点として、また国際的に活躍する顧客にとって魅力的な市場です。

www.swissbanking.ch スイス銀行協会(SBA)

9.1.2 監督

諸外国と比較して、スイスの銀行制度の銀行制度における規制上の障害や負担は、比較的低いと言えます。銀行の開業、有価証券取引、ファンドの運用、(場合によっては)アセットマネジャーとしての業務活動には許可が必要になります。約3万件の機関および商品が、いくつかの認可形態を通じてスイス連邦金融市場監督機構(FINMA)の監督下にあります。FINMAは、個々のケースにおける要件について情報を提供しています。

独立監督機関である連邦金融市場監督機構(FINMA)は、債権者、投資家、被保険者といった金融市場の顧客を保護します。これが、機能性が高く、信頼でき、競争力のある金融センターとしてのスイスに対して、人々が信頼を寄せる結果となっています。さらに、自己規制が、スイス金融業界における追加的な規制タイプとして評価されています。FINMAは、自己規制を支援し、必要な余地を与えるよう立法府から要請されています。例えば、金融に関するルールはスイス銀行家協会から提案され、FINMAはそれを承認し実施します。

スイスで銀行業を営む場合にはライセンスが必要です。スイスで採用されている金融監督基準には、銀行の適切な自己資本比率のみならず、広範な監督規制や行動規範も含まれます。更にスイスでは、バーゼル合意(バーゼル-III)よりも厳格な資本基準を法律で定めています。

www.finma.ch
連邦金融市場監督機構(FINMA)

9.1.3 サービス

スイスの銀行は、個人と企業の双方の顧客に対して、幅広い金融商品とサービスを提供しています。スイスの銀行システムは、総合銀行の原理に基づいているため、すべての銀行が以下のサービスを行うことができます。

- 融資業務
- 資産管理と投資コンサルティング
- 機関投資業務
- 支払い業務
- 預金業務(定期預金等)
- 有価証券売買(株式取引)
- 起債業務(債権の発行)
- 財務分析

スイス国内には様々な銀行グループが存在し、各行ともに専門分野を特化し、発展してきました。

基本的に、すべての成人は、スイスで銀行口座を開くことができます。ただし、銀行には、口座の開設を拒否する権利があります。ほとんどのスイスの銀行は、普通・当座口座に対する最小預金額を設定していません。多くの銀行が、スイスフランのほか、ユーロや米ドルをはじめとする外国通貨による預金に対応しています。

顧客にとって、スイスに拠点を置く銀行に対して具体的な苦情がある場合には、スイス銀行オンブズマンに相談することをお勧めします。中立的な情報の無料提供のほか、仲裁も行います。

www.ubs.ch
www.credit-suisse.ch
大手銀行

www.kantonalbank.ch
州立銀行

www.raiffeisen.ch
ライフアイゼン銀行

www.regionalbanken.ch
地方銀行と貯蓄金融機関

www.vav-abg.ch
スイス アセットマネジメント・資産管理銀行協会

www.abps.ch
スイスプライベートバンク協会

www.swissprivatebankers.ch
スイスプライベートバンク協会

www.afbs.ch
スイス外資系銀行協会

www.bankingombudsman.ch
スイス銀行オンブズマン

9.1.4 預金保護

スイスの預金保護機関である預金者保護協会(esisuisse)は、スイス国内の各銀行および証券会社の顧客の預金を保護しています。仮に銀行の破綻によって顧客の預金が消失してしまった場合、預金者には清算人を通じて最高で10万スイスフランまで支払われます。この数字は顧客一人当たり、および1機関当たり該当します。

特典付き預金

仮に銀行の破綻によって顧客が預金が消失してしまった場合、預金者には清算人を通じて最高で10万スイスフランまで特典付きで保護されます(あらゆる通貨に該当)。ここでの特典とは、この預金が破綻申請クラス2として登録され、破綻申請クラス3に登録された預金よりも先に、清算人を通じて支払い処理が行われる優先的な権利を指します。この支払いを確実なものにするために、金融機関はスイス国内に特典付き預金の125%にあたる資産をすぐに現金化が可能なかたちで保有していなければなりません。

保証されている預金

esisuisseは、スイス国内の各銀行の特典付き預金を10万フランまで保護しています。この数字は顧客一人当たり、および1機関当たり該当します。これにより、この預金はesisuisseによる安全性と同時に、優先的な支払い処理を受ける権利を享受します。

預金保護協会(esisuisse)の機能

スイス金融監督当局(FINMA)が金融機関のひとつ(銀行や証券会社)を閉鎖する場合、この金融機関が所有している現金化がすぐに可能な資産を特典付き預金者に支払うように指示されます。この金融機関の資産では保護されている預金の支払いが不可能である場合に、esisuisseが活用されます。esisuisseは、会員(全ての金融機関が強制的にesisuisseの会員)の口座引き落としにより、必要な資金を調達します。そうして20営業日以内に、この調達した資金をFINMAから指名されている清算人を通じて送金します。esisuisseは、最大60億スイスフランまでの資金を用意します。金融機関は、法的に定められている現金化が可能な流動資産の保有に加えて、esisuisseに支払う会費の最高額の半分の現金化が可能な流動資産として常に保有しなければなりません。

預金保護の最適化

預金保護制度は今後数年かけて3つの措置によってさらに最適化されます。第一に、制度内の上限が緩やかになり、現行の60億フランから制度内の担保付預金の1.6%に増額されます。第二に、顧客預かり保証金の支払い期限が7営業日に短縮されます。第三に、預金保護の半分が事前融資されることとなります。このため、銀行は、有価証券ないし現金の供託、あるいは現金支払いを義務づけられることとなります。

www.esisuisse.ch

スイスの銀行および証券会社による預金者保護

9.2 スイスの証券取引所：SIXスイス証券取引所

SIXスイス証券取引所は、欧州で最も重要な証券取引所のひとつです。この取引所は、スイスの有価証券の取引に素晴らしい流動性をもたらし、世界中から集まる企業を国際的に活動する投資家や取引の参加者と結びつけています。

スイスの金融センターは、資金調達を行う国内外の企業にとって、非常に魅力的です。というのも、すぐに全体を把握することができ、密接なネットワークが張り巡らされているうえに、国際的にも開かれているからです。したがって、世界的なコンツェルンや金融サービス業者、そして有力投資家が他に類を見ないほどの密度で集中していることもそれほど驚くことではありません。このことは、当然ながらSIXスイス証券取引所が、他の取引所に比べ、競争力を強化する利点となっています。また、株式上場している企業が、経験豊富で豊富な資金力を持ったスイス国内および国際的な投資家グループへアクセスすることができるように、高い流動性を実現しています。

自動調節機能のおかげで、スイスの株式市場は、上場や国内外の株券、債券、上場投資信託(ETFs)や、上場投資商品市場(ETPs)、投資ファンド、仕組債などの取引にとって優位になるようなフレームワークの提供に成功しています。さらに、SIXスイスデジタル証券取引所は、デジタル資産の発行と取引において先駆的な役割を担っています。

SIXスイス証券取引所は、トップクラスのサービスにより、スイス金融センターが備えている立地というメリットをさらに何倍にも増幅させます。これにより、この取引所はあらゆる国籍、規模、そして産業分野に所属する企業にとって、上場するには理想的な場所となっています。SIXは、スイスで最も重要な株価指数を示すSMI®を含む独自のインデックスを揃えています。

世界最高のパフォーマンスを発揮する取引用最先端テクノロジーや、幅広いネットワークへのアクセスを備えたSIXスイス証券取引所は、素晴らしい取引環境を提供しています。また、この取引所は、国内外の顧客と密接にコミュニケーションできるように、サービス、ケアを怠りません。これにより、顧客の成功に繋がる理想的な環境を作り上げます。それに加え、この証券取引所は、強力なグローバル・ネットワークを顧客に提供します。このネットワークには、市場データを収集および供給するSIX Exfeed AGや投資ファンドのデータバンクであるSwiss Fund Dataが含まれます。

SIXスイス証券取引所は、金融情報や支払取引、証券取引において世界でもトップクラスのサービスを提供するSIXの一部です。

www.six-group.com
スイス証券取引所

www.sdx.com
SIXスイスデジタル証券取引所

スイスの力強い金融市場と
立地としての魅力は、
スイス証券取引所(SIX)に
国内外の企業を引きつけています

9.3 企業向け融資と不動産融資

企業の立ち上げには、多くの場合、中・長期的な目標が存在します。そして一般に、大規模な初期投資とプロジェクトのための資金調達が必要になります。スイスの銀行は、徹底的な市場分析を実施している専門的な経営体制であることを最も重視します。

9.3.1 進行中の事業活動のための資金調達

事業活動資金の調達に対し銀行は様々なタイプの短期融資を提供します。これは、無担保貸付として融資されるか、または担保により保証されます。商業用の資金調達のための融資の基盤は、なによりも市場でのパフォーマンス、収益力、そして企業経営のクオリティと将来性です。銀行が融資先の企業の返済能力を判断する際に、これらの要素は重要な意味を持ちます。その企業が安全性を提供できるかどうか、商業ビジネスの領域では補助的なつながりを持ちます。

デジタル化の流れが進むなか(インダストリー4.0)、多くの企業の資金調達の目的が生産プロセスを根本から刷新することに置かれ、具体的な投資商品の購入を目指すものが少なくなっています。このことから、資金調達の需要の在り方も変化しています。銀行にとっては、デジタル化が進む世界の中でビジネスモデルやその可能性を正しく理解し、評価することが求められます。その一方で、企業は適切な情報を銀行に届けられなければなりません。

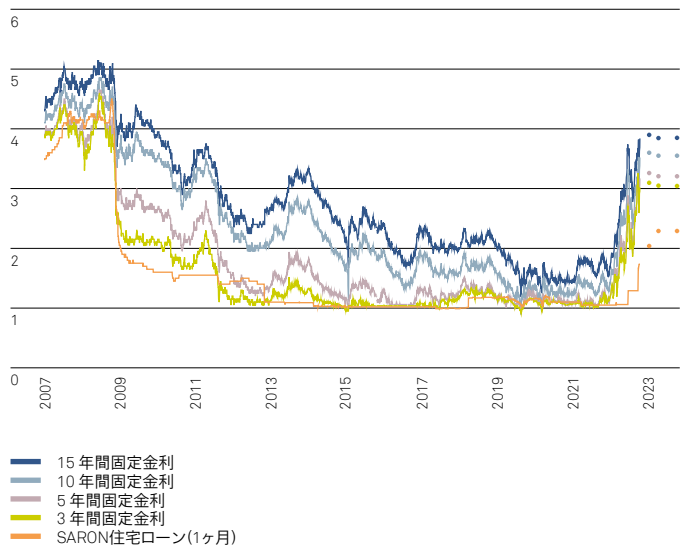
スイスの金融センターでは、多様性に溢れ、高いクオリティを備えたスタッフがサービスを行っています。この際立った環境のおかげで、企業は、顧客として幅広い選択肢の中から、適切な資金調達のソリューションを見つけることができます。事業用貸付や投資用バンクローン、あるいはリースのような一般的な商品の他にも、スタートアップの資金調達や輸出入貿易のための資金調達(貿易金融)、転換社債や補償証券、あるいはエンジェル投資家、ベンチャーキャピタル、未公開株への投資家を通じた持分資金調達など、特殊な商品も提供しています。

それに加えて、銀行は、企業を対象にあらゆる種類のデリバティブ商品(先物取引やオプション)を提供しています。これにより、企業は目的に応じて金融リスク(例えば利子や通貨の値動きなど)をコントロールすることができます。

担保貸付金利の推移

新規契約の金利(%)

(図33)



出典：クレディ・スイス、2022年

2021年、ベンチャーキャピタルが、スイスの若い革新的な企業に投資した額は、31億スイスフランに達しています。

出典：www.startupticker.ch/en/swiss-venture-capital-report
Swiss Venture Capital Report, 2022

9.3.2 抵当貸付

会社設立または事業所開設が不動産の取得または事業所の建設を伴う場合には、担保貸付が信用供与手段となります。スイスの代表的な担保貸付の種類として全期間固定金利型、変動金利型、固定期間選択型(固定金利特約型とも呼ばれます)の3種類が挙げられます。変動金利型の金利は、一般的な資本市場金利に合わせて変動します。それに対して、全期間固定金利型の金利は、決められた期間(1年から15年)、固定されます。固定期間選択型の金利は、SIXが公表しているスイス翌日物平均金利(SARON)に基づいています。貸付業者はこの金利にマージンを加算しますが、マージンの比率は借り手の信用度合いによって変動します。資金は、資産の市場価値の最高80%まで借りることができます。第1回の貸付額は、最高65%までです。他国では一般的な償還もスイスでは必要ありません。その代わりに、2回目の貸付では償還されるべき金額が設定されます。銀行は、独自の規定に基づいて借り手の資産状況を確認し、信用価値を割り出します。一般に、購入者は自身の資産から購入価格の20%以上を提供することが最低条件となります。次に、購入年間経費(金利、返済金、維持費)が、購入者の総所得の3分の1以内であることが求められます。金利の交渉は可能です。したがって、複数の金融機関から話を聞くことをお勧めします。

商業用不動産の場合、担保価値は収益性が重視されることが多くなっています。工業系事業計画では通常、工場の評価額、すなわち機械設備を含めた市場価格や建設費の50%が調達可能であり、不動産を担保にした場合と比較すると、非常に魅力的な条件で資金が調達できます。オフィスやサービス業の建物のローン資産価値比率は通常70%前後ですが、資産特有のリスクに応じて変動します。現在の事業投資に適用されている金利や条件は、企業の信用力、また貸付側の銀行が提示する利率によって変動します。したがって、企業のリスクや今後の見通しを認識することが重要な役割を果たします。

住居資産を保有している場合は、これを架空の収入として税金申告をする必要があります。大体の目安として、連邦税では平均的市場賃賃価格の最低70%にあたる帰属価値が対象となり、州税および市町村税では最低60%の帰属賃賃価格が対象となります。その見返りとして、建物の所有者は、担保貸付利と維持費を控除することができます。第1回貸付で償還がほとんど行われたいのは、このような事情によるためです。

www.hausinfo.ch > Financing and buying
住居資産の財務的側面

www.hypothekenrechner.ch
資金調達シミュレーション

9.4 リスクキャピタル

2021年にベンチャーキャピタルがスイスの若い革新的な企業に投資した額は、31億スイスフランに達しました。この投資金額は2012年と比べて6倍以上になっています。国の助成プログラムや商業銀行からの融資と並び、ベンチャーキャピタル(VC)は、スイスのイノベーションの重要な柱となっています。連邦当局も、ベンチャーキャピタルに関する連邦法(RKG)を通して支援しており、以下のような2つの税制優遇措置を提供しています。

- 公認されたベンチャーキャピタル会社は、会社設立時や増資をする場合、印紙税が免除されます。さらに、資本参加の控除により直接連邦税に関しては、低い税率が適用されます。
- ビジネスエンジェル(BA)として新規会社の設立や発展を支援する個人が、新設企業の立ち上げ準備として劣後ローンを受けるため個人資産を担保にした場合は、連邦直接税が軽減されます。

ベンチャーキャピタルやそれに類似した資金提供ファンドの利用可能性は常に変動しますし、透明性に欠けることがあります。そのため、大学やコンサルティング会社、企業グループなどが共同でインターネットを含めた様々な情報のプラットフォームを提供し、企業家と投資家が協力できるよう努めています。

www.startupticker.ch > Assets > Swiss Venture Capital Report
スタートアップのためのオンラインプラットフォーム

www.seca.ch
スイス未公開株式会社法人金融協会(SECA)

9.4.1 ベンチャーキャピタル

金融機関の中には、リスクマネーの提供を専門に行うものもあります。ベンチャーキャピタル企業は、ある特定の企業が将来的に事業を拡大し、上場した際に莫大な利益を得られるよう、その企業に資本参加します。ベンチャーキャピタルは、従来形式の担保を要求することなく、資金を提供します。基本的に、ベンチャーキャピタル投資の対象として考慮されるのは、短期間で巨額の利益を創出することが見込まれる成長著しい新興企業です。さらに、その中でも数百万スイスフラン単位の資金が必要な企業に限られています。ベンチャーキャピタリストは、金融プロジェクトの発展段階のガイド役を自認しています。プロジェクトが完了すると、ベンチャーキャピタリストは投資先の企業から撤退し、創業者や他の投資家に売り渡します。

www.kmu.admin.ch > Practical knowledge > Finances > Financing
資金調達元の一覧

www.swiss-venture-club.ch
起業家のための情報プラットフォーム、ネットワーク

政府支援

(図34)

手段	優遇対象	地域	措置
新地域政策(NRP)	工業、製造関連企業	経済再生地域	連邦直接税の軽減
営業上の保証	中小企業、一般営利事業	スイス全土	銀行貸付に対する保証(最大100万スイスフラン)
ホテルへの貸付	ホテル業界	観光地および山岳地域	直接ローン 保証 支払利息助成金(一部)
独立した専門的活動の支援策	失業者	スイス全土	日当(計画段階では最大90日) 銀行貸付に対する保証 (最大100万スイスフラン)
Innosuisse – スイスのイノベーション推進機関	研究機関と企業による共同イノベーションプロジェクト	スイス全土	研究に基礎をおいたイノベーションの助成金

出典：各種連邦政府機関、Generisによる独自編集

9.4.2 ビジネスエンジェル(エンジェル投資家)

将来有望な新興企業が立ち上げ段階で必要とする資金は、多くの場合、200万スイスフラン未満です。近年ではリスクキャピタルが利用しやすくなっていますが、需要の増加に伴い、リスクキャピタルの提供者や投資会社の投資最低額は上昇しています。200万スイスフラン未満の取引を扱うリスクキャピタル業者はごく少数です。そのため、エンジェル投資家と呼ばれる個人投資家がスタートアップを支援することが多くなっています。典型的なエンジェル投資家は、資本に加えて企業家として培った経験と人脈を持っており、若い起業家にとって頼れるコンサルタントであり、指導者でもあります。エンジェル投資家は、企業に2倍、3倍の価値となる投資をもたらします。すなわち、彼らの資本、経験、時間が投資されるのです。これが、若い起業家が「スマート・マネー」を得ると言われる所以です。しかし、基本的には、エンジェル投資家も、ベンチャーキャピタル投資家と同様に、明確な見返りを求めます。目的は、新しい会社を始め、展開し、そして確立すること、そして後の投資家にとって魅力的な会社に育てることです。そのため、若い起業家は、エンジェル投資家に密接なサポートを受けると同時に、事業計画の開示も要求されるのが通例です。

www.businessangels.ch

ビジネス・エンジェルズ・スイス(BAS)

9.4.3 政府支援

スイスでは、直接的な財政支援は比較的行われず、主に有利な環境整備に注力しています。しかし、国は様々な形で企業を支援する手段を持っており、それは行政面からの支援や税制優遇措置、さらに資金調達の際の保証など多岐にわたります。

州の経済開発局(146ページ以降の関連資料参照)も、企業に対して直接的な支援を行えないのが実情です。しかし、手頃な価格の建設用地探しを支援したり、起業段階や事業拡大中の企業に対して税負担を軽減する措置を講じたりしています。

唯一の例外は、スイス経済の振興を目指すスイス連邦財団です。この財団は無利息ローンを提供します。しかし、例外的にリスクキャピタルに参画する場合は、創業者自らが個人的に資金調達に関与することを求める場合があります。

www.kmu.admin.ch > Practical knowledge > Finances > Financing

資金調達における政府支援

9.5 資本コストと利子

スイスは、世界で最も経済的・政治的に安定した国家のひとつに数えられ、「安全な避難場所」とみなされています。スイスの財政状況は健全です。このことは中央政府である連邦政府だけでなく、州と市町村にも当てはまります。コロナの大流行により、スイスでも多額の追加支出が発生しましたが、危機以前の極めて健全な財政状態により、危機を乗り越えることができました。コロナの支出は150億スイスフラン(2020年)、141億スイスフラン(2021年)に上ったにもかかわらず、2021年末のスイスの純負債は60億増加の761億にとどまりました。

スイスは、国家としての信用度が高く、貯蓄率や外貨流入量も高いため、国際的に比べても金利がだいぶ低くなります。このため、事業や投資のための資金調達が比較的容易に進められます。近年では、金融市場や資本市場におけるスイスフランとユーロの平均金利差は、1.5%から2%の間にとどまっています。ローザンヌにある国際経営開発研究所(IMD)も、資本コストが経済発展に与えるプラス効果について指摘しており、スイスは資本コストに関する国際ランキングで1位となっています(図35)。

www.liik.bfs.admin.ch
消費者物価指数(CPI)

www.efv.admin.ch
連邦財務局(EFV)

9.6 インフレ

スイスは、安定を目指した国として有名で、実際にその評価に相応しい国です。スイスの消費者物価指数を基に割り出した近年のインフレ率は、常にEU諸国やその他の主要先進国を大きく下回っています。

資本コスト

1=経済成長を妨げる

10=経済成長を促す

(図35)

1	スイス	7.79
2	フィンランド	7.71
3	スウェーデン	7.70
4	香港	7.48
5	台湾、中国	7.42
6	オランダ	7.41
7	デンマーク	7.26
8	シンガポール	7.25
9	米国	7.23
11	ドイツ	7.21
17	カナダ	6.53
20	英国	6.27
22	フランス	6.24
23	ルクセンブルク	6.21
24	イタリア	6.14
25	日本	6.09
29	アイルランド	6.00
36	インド	5.73
44	韓国	5.20
46	中国	5.04

出典：IMD世界競争力センター、2022年